

誤りのない会計処理のために

第2章 誤りやすい会計処理について

第1節 入力時のメッセージの意味と対処方法

第1項 一取引二仕訳と論理チェック

1. 「ヒューマンライズ」におけるデータチェックの方法の(2)入力時点でのミスの発見方法で述べたように「ヒューマンライズ」における仕訳伝票入力時の論理チェックは、インプットミスを防ぐ効果をもっています。インプットミスによって、伝票起票時では考えられない非論理的な仕訳の組あわせが生じるため、逆に論理チェックによってインプットミスを発見することが出来る訳です。

しかし「ヒューマンライズ」における論理チェックの本来の目的は、公益法人会計基準の体系からみて、明らかに誤りである仕訳の入力を防ぐことにあります。起票時の仕訳の論理性に誤りがないかどうかをシステムにより、自動的にチェックすることにある訳です。「ヒューマンライズ」においてこのようなチェックを行なう理由は、公益法人会計基準が、企業会計にはない複雑な要素を持っているからです。

企業会計と比較して公益法人会計の特質をあげるとすれば、予算の編成、執行は重要であるとされています。平成20年公益会計基準より、収支計算書について、財務諸表には含まれなくなりましたが、予算と実績を対比する収支計算書により法人の運営の状況を報告、説明してきたことから、継続して収支計算書を作成している法人も多く存在します。そのため、貸借対照表、正味財産増減計算書（企業会計での損益計算書に当たる）の作成と、運営状況の報告のために収支計算書（予算書）を作成する必要があります。

収支計算書については、会計的にとらえると資金の増加減少原因をあらわしたものであると定義できます。正味財産増減計算書については、貸借対照表の全体から正味財産の増加減少原因を表したものであり、資金の増減を記録する仕訳と、貸借対照表とその増減を記録する仕訳という、2つの異なる観点から仕訳を行う必要があります。

では、簡単な取引を用いて、『収支計算書』から考えた場合と、『貸借対照表、正味財産増減計算書』から考えた場合の、2つの観点から仕訳として作成する事を考えていきます。なお、収支計算書の観点で説明する際には、資金の表現をわかりやすいように、「おかね」という表現を用います。

例1：会費として普通預金にお金が振り込まれた

誤りのない会計処理のために

収支計算書の観点：

収支計算書では、「おかね」が増える原因を「収入」とします。今回の例では普通預金に振込まれた時、「おかね」の増加を左側（借方）に、その原因である「会費収入」を右側（貸方）に書きます。

普通預金（資金）／会費収入（収入）

という仕訳になります。

貸借対照表、正味財産増減計算書の観点

普通預金は「おかね」であると同時に、貸借対照表における資産であり、資産が増加するという事は、正味財産も増加するという側面を持っております。「資産」の増加を左側（借方）に、増加の原因である「受取会費（収益）」を右側（貸方）に書きます。

普通預金（資産）／受取会費（収益）

という仕訳になります。

例2：普通預金から振込により従業員に給料を支払った

収支計算書の観点：

「おかね」の減少を右側（貸方）に、その原因である「給料手当支出」を左側（借方）に書きます。

給料手当支出（支出）／普通預金（資金）

という仕訳になります。

貸借対照表、正味財産増減計算書の観点

「資産」の減少を右側（貸方）に、減少の原因である「給料手当（費用）」を左側（貸方）に書きます。

給料手当（費用）／普通預金（資産）

という仕訳になります。

前述した、普通預金という銀行口座からお金が入り出すという取引でも、2つの観点から仕訳を作成（一取引二仕訳）し、記録を行う必要があります。では、2つの観点が存在しない事例には、どのような取引があるのかも併せて説明します。

例3：普通預金から現金を引き出した

収支計算書の観点

普通預金という「おかね」が減少し、現金という「おかね」増加したという現象につながります。しかし、収支計算書は「おかね」が増加・減少した際の原因を表す書類であり、今回は「おかね」に関しての増減はなかった（普通預金は減少するが、同額の現金が増加するため）となるため、収支計算書の観点での仕訳はありません。

貸借対照表、正味財産増減計算書の観点

正味財産増減計算書については、収支計算書と同様に、正味財産の増減はなかったため、

誤りのない会計処理のために

正味財産増減計算書としての仕訳は存在しません。しかし、普通預金から現金という資産間での動きはあるため、「資産」の増加を左側（借方）に、「資産」の減少を右側（貸方）に書きます。

現金（資産）／普通預金（資産）

という仕訳になります。

例4：車両を除却した

収支計算書の観点

「おかね」は増減しないため、仕訳はありません

貸借対照表、正味財産増減計算書の観点

「資産」の減少を右側（貸方）に、原因である「車両除却損失（費用）」を左側（借方）に書きます。

車両除却損失（費用）／車両（資産）

という仕訳になります。

※ヒューマンライズにおきましては、固定資産の減価償却に関して、仕訳は間接法で入力し、財務諸表出力の際に直接法、間接法を選択できる方式を採用していますが、本解説は簡略化のために直接法で説明します。

上述したように、貸借対照表、正味財産増減計算書、収支計算書を作成するためには、2つの異なる観点から仕訳を作成し、記帳する必要があります。

まとめて言えば、公益法人では、各取引を「資金・収入・支出」という概念と「資産・負債・正味財産・正味財産の増加・正味財産の減少」という二つの異なった概念のグループで分析しており、その結果、一つの取引について、それぞれの概念グループによる仕訳がそれぞれ一つずつ発生する場合があるということになります。一取引二仕訳とは、一つの取引を二つの方向から分析（仕訳）するために発生するのです。

以上が、公益法人会計を企業会計より複雑にしている理由であり、一つの取引から複数の仕訳を作成する事によって、計算書類が相互に矛盾をきたすおそれがあります。次に述べる具体的なメッセージはそのような矛盾を防ぐためにシステムの中に組み込まれたものです。

第2項 論理チェックによるメッセージの種類

「ヒューマンライズ」において、入力時点での論理チェックによるメッセージには大別して次の2種類のものがあります。

誤りのない会計処理のために

(1) 入力不可とするもの

計算書類相互間に矛盾をきたすため、入力出来ないようにしているものです。メッセージを表示すると同時に、勘定科目の変更を行なうか、入力を取りやめるかどちらかの方法しかとれないようにしています。

画面 1

資金取引に収支科目以外があるため、処理できません

伝票日付 平成 27年 4月 1日 伝票番号 150400005 入力 振替 決裁区分 なし 分類 通常伝票

| No | 借方/科目 | 金額 | 貸方/科目 | 金額 |
|----|-------------------------|-----------|----------------------|-----------|
| 1 | 040300 その他固定資産 建物 | 1,000,000 | 010111 流動資産 現金 | 1,000,000 |
| | 関 | 税 | 関 | 税 |
| | 摘 | 予定日 | 摘 | 予定日 |
| | 事 | 予算残 | 事 | 予算残 |

(2) 警告メッセージであるもの

論理的にはありうる取引だが、発生することがまれなものです。メッセージを画面に表示し注意を促すようにしていますが、「はい」を押せば、仕訳として登録します。

画面 2

| No | 借方/科目 | 金額 | 貸方/科目 | 金額 |
|----|----------------------------|-------|-----------------------------|-------|
| 1 | 330125 A事業費支出 消耗品費支出 | 3,000 | 330119 A事業費支出 旅費交通費支出 | 3,000 |
| | 関 | 税 | 関 | 税 |
| | 摘 | 予定日 | 摘 | 予定日 |
| | 事 A事業 | 予算残 | 事 A事業 | 予算残 |

確認

? この取引は相殺、又は修正仕訳です。よろしいですか?

はい(Y) いいえ(N)

第3項 論理的チェックによる具体的メッセージの意味と対処方法

(1) 資金取引に収支科目以外があるため、処理できません (入力不可)

画面 3

誤りのない会計処理のために

資金取引に収支科目以外があるため、処理できません

| 伝票日付 | 平成 | 27年 | 4月 | 1日 | 伝票番号 | 150400005 | 入力 | 振替 | 決裁区分 | なし | Ctrl+ Ins 行追加 |
|------|--------------------------|------------|----------------------|------------|-----------|-----------|----|----|------|------|---------------|
| 1 | - | 1 | - | 0 | 公益目的事業会計1 | | | | 分類 | 通常伝票 | Del 行削除 |
| No | 借方/科目 | 金額 | 貸方/科目 | 金額 | | | | | | | |
| 1 | 025100 基本財産 投資有価証券 | 12,000,000 | 010111 流動資産 現金 | 12,000,000 | | | | | | | |
| | 関 | 税 | 関 | 税 | | | | | | | |
| | 摘 | 予定日 | 摘 | 予定日 | | | | | | | |
| 削 | 事 A事業 | 予算残 | 事 A事業 | 予算残 | | | | | | | |

画面 4

資金取引に収支科目以外があるため、処理できません

| 伝票日付 | 平成 | 27年 | 4月 | 1日 | 伝票番号 | 150400005 | 入力 | 振替 | 決裁区分 | なし | Ctrl+ Ins 行追加 |
|------|---------------------------|---------|----------------------|---------|-----------|-----------|----|----|------|------|---------------|
| 1 | - | 1 | - | 0 | 公益目的事業会計1 | | | | 分類 | 通常伝票 | Del 行削除 |
| No | 借方/科目 | 金額 | 貸方/科目 | 金額 | | | | | | | |
| 1 | 041300 その他固定資産 什器備品 | 800,000 | 010111 流動資産 現金 | 800,000 | | | | | | | |
| | 関 | 税 | 関 | 税 | | | | | | | |
| | 摘 | 予定日 | 摘 | 予定日 | | | | | | | |
| 削 | 事 A事業 | 予算残 | 事 A事業 | 予算残 | | | | | | | |

収支計算書が資金の増減理由を表示するものであることは、先に述べました。逆に言えば、資金間取引を除き資金の増減をともなう取引の相手科目は、必ず収支計算書の科目でなければなりません。上の仕訳は、この原則をはずれたものです。もしこれらの仕訳が入力できれば、期末の資金の残高と次期繰越収支差額の金額が不一致となります。

(2) 計算書間で金額が不一致になるため処理できません (入力不可)

画面 5

計算書間で金額が不一致になるため、処理できません

| 伝票日付 | 平成 | 27年 | 4月 | 1日 | 伝票番号 | 150400005 | 入力 | 振替 | 決裁区分 | なし | Ctrl+ Ins 行追加 |
|------|--------------------------------|---------|---------------------------|---------|-----------|-----------|----|----|------|------|---------------|
| 1 | - | 1 | - | 0 | 公益目的事業会計1 | | | | 分類 | 通常伝票 | Del 行削除 |
| No | 借方/科目 | 金額 | 貸方/科目 | 金額 | | | | | | | |
| 1 | 441300 固定資産取得支出 什器備品購入支出 | 800,000 | 041300 その他固定資産 什器備品 | 800,000 | | | | | | | |
| | 関 | 税 | 関 | 税 | | | | | | | |
| | 摘 | 予定日 | 摘 | 予定日 | | | | | | | |
| 削 | 事 A事業 | 予算残 | 事 A事業 | 予算残 | | | | | | | |

資金の増減がないのに収支計算書科目を使用した場合です。(1) と表裏の関係にあり、同様に公益法人会計基準の体系を破壊することになるため、入力できないようにしています。

(3) 仕訳の組合せが正しくない取引のため、処理できません (入力不可)

画面 6

誤りのない会計処理のために

仕訳の組み合わせが正しくない取引のため、処理できません

| 伝票日付 | 平成 27年 4月 1日 | 伝票番号 | 150400005 | 入力 | 振替 | 決裁区分 | なし | Ctrl+Ins | 行追加 |
|------|----------------------------|-----------|-------------------------|---------|----|------|------|----------|-----|
| 1 | - 1 - 0 | 公益目的事業会計1 | | | | 分類 | 通常伝票 | Del | 行削除 |
| No | 借方/科目 | 金額 | 貸方/科目 | 金額 | | | | | |
| 1 | 890900 除却損失 車両運搬具除却損 | 500,000 | 040300 その他固定資産 建物 | 500,000 | | | | | |
| | 関 | 税 | 関 | 税 | | | | | |
| | 摘 | 予定日 | 摘 | 予定日 | | | | | |
| 削 | 事 A事業 | 予算残 | 事 | 予算残 | | | | | |

除却されるものは車輛なのか、建物なのか。貸借対照表の建物が減少するのに、正味財産増減計算書では車輛が減少したことになっては、理屈が合いません。従って入力できないようにしています。

(4) この取引は相殺、または修正仕訳です。よろしいですか？（警告メッセージ）

画面 7

| No | 借方/科目 | 金額 | 貸方/科目 | 金額 |
|----|---------------------------------|---------|--------------------------------|---------|
| 1 | 440900 固定資産取得支出 車両運搬具購入支出 | 680,000 | 441300 固定資産取得支出 什器備品購入支出 | 680,000 |
| | 関 | 税 | 関 | 税 |
| | 摘 | 予定日 | 摘 | 予定日 |
| 削 | 事 A事業 | 予算残 | 事 A事業 | 予算残 |

確認

? この取引は相殺、又は修正仕訳です。よろしいですか？

はい(Y) いいえ(N)

画面 8

| 1次 | 2次 | | | |
|----|----------------------------|---------|---------------------------|---------|
| No | 借方/科目 | 金額 | 貸方/科目 | 金額 |
| 1 | 040900 その他固定資産 車両運搬具 | 680,000 | 041300 その他固定資産 什器備品 | 680,000 |
| | 関 | 税 | 関 | 税 |
| | 摘 | 予定日 | 摘 | 予定日 |
| 削 | 事 A事業 | 予算残 | 事 A事業 | 予算残 |

建物に付属するクーラーについて最初は備品として仕訳していたものを建物附属設備に振替たい場合です。このような科目の組合せは、修正仕訳として発生するものであり通常の仕訳とは異なるため、仕訳登録の前に一度確認してもらうようメッセージを出力しています。

(5) 非資金同士の仕訳ですが、よろしいですか？（警告メッセージ）

画面 9

誤りのない会計処理のために

| No | 借方/科目 | 金額 | 貸方/科目 | 金額 |
|----|---------------------------|---------|--------------------------|---------|
| 1 | 040900 其他固定資産 車両運搬具 | 600,000 | 041300 其他固定資産 什器備品 | 600,000 |
| | 関 | 税 | 関 | 税 |
| | 摘 | 予定日 | 摘 | 予定日 |
| 削 | 事 | 予算残 | 事 | 予算残 |

確認

非資金同士の仕訳ですが、よろしいですか？

はい(Y) いいえ(N)

このような仕訳は、(4) で述べたように、今期取得分については収支計算書科目により修正を行なうべきです。しかし、前期以前に取得し、すでに貸借対照表に計上されているものについて今期修正する場合、収支計算書科目を使用すると、今期の収支計算書をゆがめてしまうおそれがあります。従ってメッセージを出力し、確認の上、登録するようにしているわけです。